

土曜フレッシュ講座 考え、議論する道徳授業づくり・学級づくり

平成29年10月21日(土) 北部ハマ・アップ

講師 横浜市立下田小学校 主幹教諭 加々宮 真紀子 先生

1 道徳授業に向けて

まずは、道徳の授業に向けて、こんなことで悩んでいませんか？

- ・何をやればよいのか、分からない・・・
- ・お説教の時間になってしまう・・・
- ・発問・・・何を聞いたらよいのか、分からない・・・
- ・評価は、どうしたらよいのだろうか・・・
- ・事前のアンケートなど、毎時間行うのは、無理・・・

などの不安を抱えながら・・・

「はあ～、また道徳やらなくちゃならいんだ」という意識から
「道徳、いいかもしれない」(Cheer up!!)となるコツを丁寧にお話されました。



そこで、

(1) 道徳授業で行う道徳内容についての子どもの実態把握をしっかりと分析しましょう。
そこで、道徳内容に関する行為から学年別視点を窓口にして、どのような意識があるのかを分析しましょう。これ大事！

そのために

(2) 学習の総合化を図り、一人ひとりの問題意識を高める仕掛けを仕組んでいきましょう。
「指導の着眼点」をもとに、日常の教育活動、学校行事との関連を図った指導をしっかりと行い、一人ひとりの児童の問題意識を授業までに十分に高めておきましょう。

(3) ねらいの設定と教材の選定

子どもの実態から指導の方向を考え、本時の道徳授業のねらいを決定しましょう。その際、ねらいの示し方は、たとえば「規則の尊重」であれば、「周りの人のことを考え、みんなの物を大切に使うと、みんなが気持ちよく使うことが分かり、約束やきまりを守ってみんなの物を大切にしようとする態度を養う。」つまり「〇〇という考えで(価値を実現)すると～(こんな良さがある)ことが分かり～(価値を実現)しよとする心を育てる。(道徳性の諸様相)」という表し方となります。

教材については、3点です。①学級の児童の実態に合っているか。②ねらいとする道徳的価値を的確につかむことができる教材か。③価値を実現するよさが描かれた教材か。(よさが描かれていない場合は、発問など、教材の使いか方を工夫する必要がある。)

(4) 道徳の時間の基本的な道徳過程

①導入

本時学ぶべきことを自分事としてとらえ、主体的な学習ができるように、意図的・計画的に行います。(学習の総合化を図った指導計画を踏まえて)

②展開前段

教材を活用して、道徳的価値の追求・把握をします。

*多面的・多角的な見方へ広げる指導や発問の工夫をします。

③展開後段

把握した価値に照らし合わせて、自己の在り方を見つめ直します。(振り返り)

*自己を見つめ、考えを深める指導や友だちとその振り返りを交流し、さらに考えを深めます。

④終末

実践への意欲をもつことができるように、余韻を残して終わるなどの工夫をします。

*先生の体験談、価値を実現している児童の日記や作文の紹介、視聴覚教材の活用など

(5) 板書はどうするの・・・

板書は思考を深めたり、価値把握をしたりするときに、考えを助けるための大切な支援です。

*場面絵、キーワード・キーセンテンスの提示、価値と価値のもつよさの強調など

(6) 評価は、どうしたらよいのだろう・・・
道徳性を評価するのではなく、学習活動を評価します。

① 評価の視点

- ・多面的・多角的な見方へと広げているか。
- ・道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めているか。

② 道徳科での子どもの評価の在り方

- ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価
- ・個人内評価
- ・大きくくりなまとまりを踏まえた評価



(7) 学習のあしあと

道徳授業で学習した内容をひとめ見て分かるようにまとめたものや「私たちの道徳」の活用したものをクラスに掲示して、事あるごとに活用するようにしています。

2 学級づくりの大切さについて

① 安心して語れる環境づくりが大切であること

② 言語環境を整えること

③ よい聞き方、話し方の丁寧な指導が大切であること

これらの環境や指導を丁寧に行うことで、道徳をはじめとする教科等の授業を充実させることが可能となります。

また、下田小学校では円ちゃん、形ちゃんというマスコットキャラクターを活用し、視覚に訴えた支援を効果的に行っています。そして、「指導をそろえる」「落ち着いた学校づくり」「教職員の共通理解」ということを意識して「下田スタンダード」「スタートブック」を作成し、日々の指導を積み重ねています。

3 質疑応答から

Q1 教師の発問に対して長々と話す児童がいた場合の扱いをどうしたらよいか。

A1 児童の話最後まで聞いてあげる姿勢は大切であるが、タイミングを掴んで、〇〇さんが伝えたいことは「～こういうことだね」と教師の方でまとめて返してあげるようにするとよい。

Q2 道徳授業の教材をどのように探したらよいか。

A2 道徳科の年間指導計画に示されているので、まずはそれを確認することと、その教材がねらいに合わないようであれば管理職（校長）に相談し、変更することとなる。

4 参加者からの感想から

- ・道徳の授業をつくる時に必要な教師の視点や教材の扱い方を詳しく知ることができました。明日から使うことができる授業展開の仕方を学び、来週の道徳ではこんなことに気を付けてやってみようと思うことができました。実践していきクラスの実態をより深く見つめていきます。
- ・今日は貴重な学びをさせて頂きありがとうございました。日頃の道徳の授業の中で、悩んでいることを話したり伺ったりすることができ、これからも頑張ろうと思いました。
- ・道徳の授業の中身だけでなく、授業に至る部分までの準備や組み立て方を学ばせていただきました。資料との見つけ合い方、指導案を作りながら迷っていたため、子どもの実態をもう一度捉えて指導内容、価値をしっかりと押さえて、グッとくる言葉を探したいと思います。ありがとうございました。お話を聞いて道徳したくてワクワクしました。
- ・道徳の授業の種まきから準備から、細かなコツまでたくさん教えていただいて、ありがとうございました。たくさんの小さなことが積み重なって教育は成り立つのだと改めて確認しました。
- ・普段の学習でも実践できるお話で、とてもわかりやすかったです。苦手に感じていた道徳の学習に、少し意欲がもてるようになりました。ありがとうございました。
- ・道徳の授業の一つのやり方を、きちんと学びました。他教科と同じように本時のねらいをしっかりもち、進める事が大切だと思いました。授業者がねらい（ゴール）をぶれずにいれば、子どもたちにつかませたいことが確実に子どもたちに落ちていくのだと思いました。

*** 各方面ハマ・アップで、本研修 DVD の貸し出しができます。**